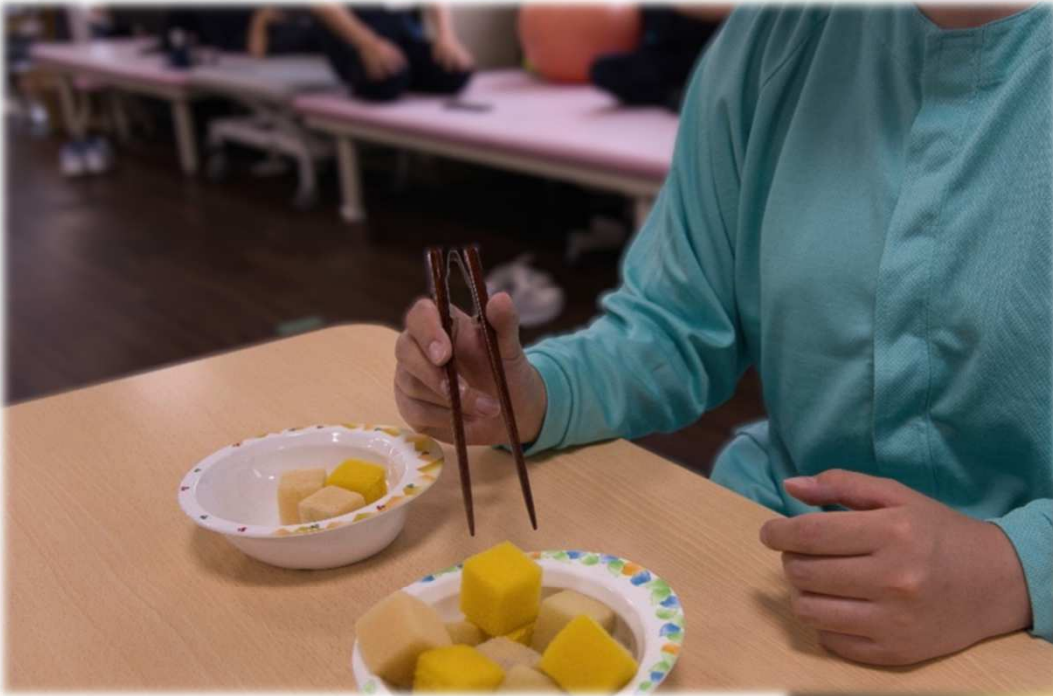


# とちぎメディカルセンター とちのき

ご紹介！

## リハビリテーションセンター



# ごあいさつ

この度は、とちぎメディカルセンターとちのき リハビリテーションセンターのページをご覧ください、誠にありがとうございます。

当院リハビリテーションセンターは、一般財団法人とちぎメディカルセンター内において、主に回復期・生活期(別名:維持期・慢性期)を担当しています。

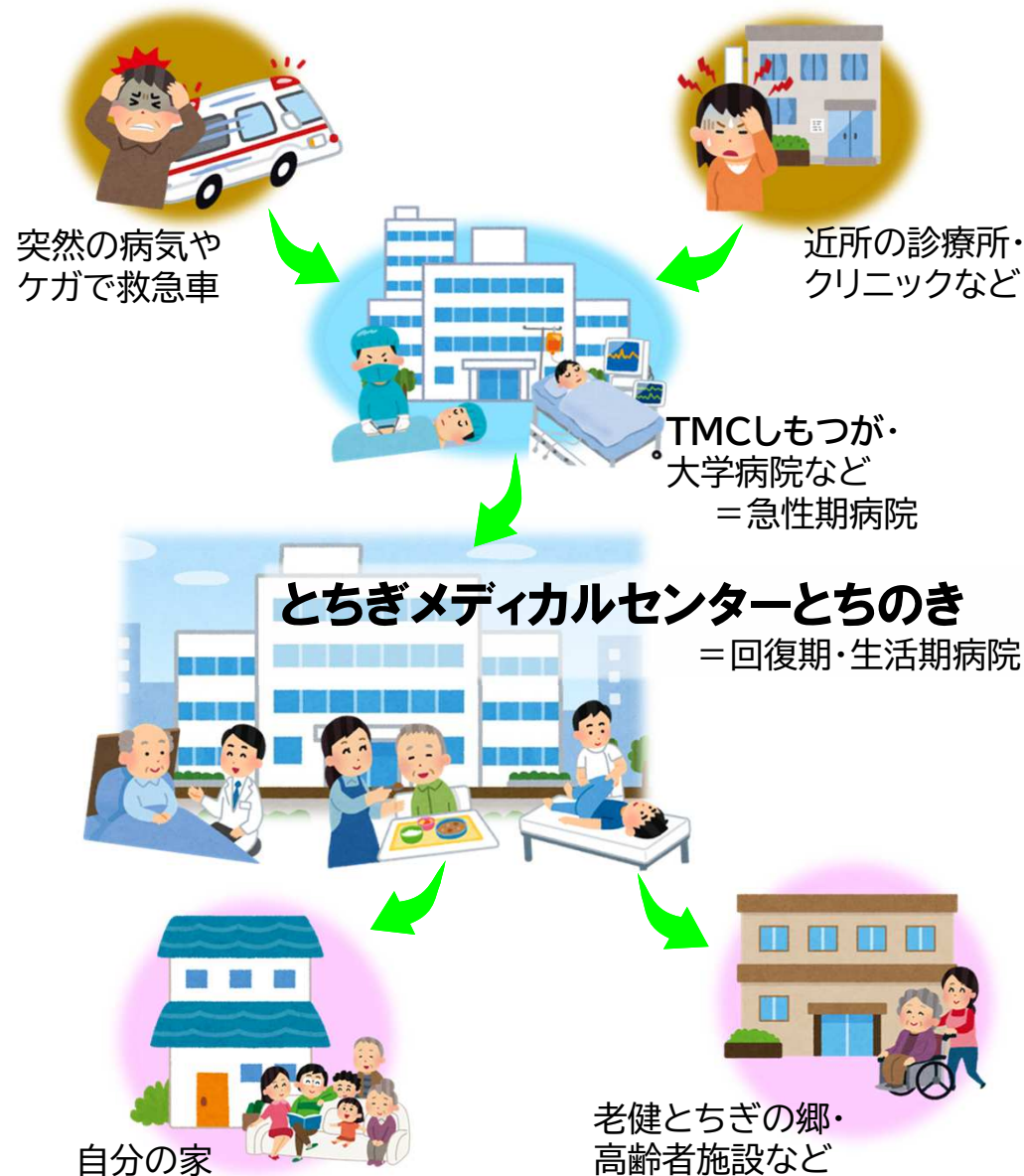
状態が安定し、生活に戻るための訓練を必要とする時期を回復期。急性期治療を受けてもなお、医療的な療養を長期的に必要とする時期を生活期と呼び、病気やケガ、加齢などにより医療機関(病院・診療所等)で急性期治療とリハビリテーションを受けた後の時期を指します。

これらの時期では、機能的な改善を図り、残存機能を活かしたよりよい動作・活動を学習すること、また改善が難しい場合は代償的な方法の獲得を図ることが重要です。

と同時に、将来のために現在の状態を悪化させず維持していけるよう関わることも重要です。

よりよい生活とは何か？ 実現したい生活への目標は何か？ そして、今後の生活を満足するために必要なものは何か？ を常に考え、患者さん・ご家族がより良い生活を達成できるよう、職員一同取り組んでいます。

リハビリテーションセンター室長



※ 当院ご利用の一例です。

※ TMCとは、「とちぎメディカルセンター(Tochigi Medical Center)」を略したものです。

## リハビリテーション(リハビリ)とは？

『病気やケガなどで障害を抱えた方が、再びその人らしい生活を取り戻し、豊かな人生を送ることができるように支援していくこと』

### ◎ 一般病棟

- ・一般病棟(急性期)
- ・回復期リハビリテーション病棟
- ・地域包括ケア病棟
- ・(緩和ケア病棟)

様々な病期・状態に応じたリハビリを提供しています！

### ◎ 療養病棟

### ◎ 外来リハビリテーション

## 主な対象疾病



### 施設基準

脳血管疾患等リハビリテーション料(I)  
運動器リハビリテーション料(I)  
心大血管リハビリテーション料(I)  
廃用症候群リハビリテーション料(I)

### スタッフ数

理学療法士(PT) 23名  
作業療法士(OT) 10名  
言語聴覚士(ST) 7名  
補助 2名

### 組織体制

室長 1名(管理者)  
係長 2名  
主任 4名  
(PT2名 OT1名 ST1名)

# PT

Physical  
Therapist

病気やケガが原因で、歩く・立つ・座るといった日常的に行う基本的な動作ができなくなった人や、身体に痛みを感じる人に対して、改善を目指して治療を行います。具体的な治療方法としては、マッサージや電気刺激、温熱といった物理的な治療を行ってみたり、関節を動かしたり、筋力をアップさせたりします。また、歩行訓練や車いすの動作訓練など、患者さんが事故や病気などに遭う前に近いところまで復帰をサポートしていきます。

理学療法士 = “**動作**の専門家”

# OT

Occupational  
Therapist

患者さんは、体や心に障害を負ってしまった方々。元気に日常生活を送れることを目指して、『作業』を使ってリハビリを行います。作業療法士の「作業」とは、お仕事・家事・勉強・遊び・趣味・近所付き合いなど様々。人が生きていく上で当たり前のように行っている活動のことを指します。患者さんの状態や目的に応じて作業を選び、精神面をケアしながら、リハビリテーションを進めていくのが大切な役割です。社会の中で楽しく生きていけるように、日常生活で行っている『作業』を上手に使う訓練を行います。

作業療法士 = “**生活と人生**の専門家”

# ST

Speech and  
Language  
Therapist

聞くこと・話すことに障害を持つ人に対して、機能回復を促します。また、脳卒中や寝たきりによって、食べ物・飲み物を飲み込むことに障害を抱えている方が安全に飲み込むことができるように治療を行います。口・舌・咽頭などの動き・構造と、脳の働き・機能に精通しています。口の動きを良くする構音訓練や、絵カードなどから言葉を引き出す訓練を行います。また、食事では、肺に食べ物や飲み物が入ってしまう誤嚥が起きないように、食べ方や食事の形態などについて指導を行います。

言語聴覚士 = “**会話と嚥下**の専門家”

突然の病気やケガにより、大きな障害を背負うことになると、誰でも暗い気持ちになり、ふさぎ込んでしまいます。

障害を負われた患者さんにとって、そのお気持ちは私たちの想像を上回るものでしょう。また、ご家族にとっても、大きな衝撃と驚き、動揺があると推察いたします。

背負ってしまった障害と、今後の人生に起きるであろう問題を解決するために、医療に携わるものは親身に寄り添い、明るい未来へと目指していくことが大切です。

リハビリ・スタッフは、そんな大事な役割の中心を担っていると考えています。患者さんの笑顔のために、私たち『とちぎメディカルセンターとちのきリハビリテーションセンター』のスタッフは、これからも努力していきます。

リハビリテーションセンター スタッフ一同

